

ミニマル／コンセプチュアル：

ドロテ&コンラート・フィッシャーと1960-70年代美術



カール・アンドレ 《雲と結晶／鉛、身体、悲嘆、歌》1996年 ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ
© Carl Andre / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo 2021 G2589

ドイツのデュッセルドルフで1967年に画廊をオープンしたコンラート・フィッシャーは、同時代の新しい芸術動向をいち早く紹介し、ミニマル・アートとコンセプチュアル・アートの国際的な展開において重要な役割を担いました。本展ではフィッシャー夫妻のコレクションを所蔵するノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館の全面的な協力を得て、1960年代から70年代のアメリカ及びヨーロッパのミニマル・アート、コンセプチュアル・アートを中心に、国内初公開作品を含む約150点の作品や資料を展覧します。

会 期	2021年10月9日(土) – 2022年1月10日(月・祝)
開館時間	10:30-16:00 (入館は15:30まで)
休 館 日	月曜 (ただし1月3日、10日は開館)、12月25日(土)–1月1日(土)
入 館 料	一般1,300円、学生・65歳以上1,100円、小中学生・高校生600円 (事前予約制)
会 場	DIC川村記念美術館 (千葉県佐倉市坂戸631)
電 話	掲載用＝050-5541-8600 (ハローダイヤル) 取材用＝043-498-2672 (事務所直通)
主 催	DIC株式会社、共同通信社
共 催	ノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館 [デュッセルドルフ]
協 力	日本航空
後 援	ドイツ連邦共和国大使館、ゲーテ・インスティトゥート東京、千葉県、千葉県教育委員会、佐倉市、佐倉市教育委員会

概要

ミニマル・アートは1960年代に主にアメリカで展開した美術の潮流として知られています。レンガや金属板、蛍光灯といった工業用素材や既製品が使用されること、正方形や立方体などの単純で幾何学的な形態やその反復による構造が一般的な特徴として挙げられます。作家の感情の痕跡や身振りを伴う表現を排し、作品はその物質性を前景化させます。

ミニマル・アートに続いて現れ、同時代に拡がりを見せたコンセプチュアル・アートは、実際の制作物以上に、もとななる考えを作品の成立条件として重視します。芸術にとって最も重要な要素はアイディアやコンセプトだと考えたのです。特定の形態に限定されることなく、言葉をはじめ、写真、映像、印刷物、日用品、自然物、そして作家自身の身体など多様な媒体や形式が用いられました。

こうした新しい傾向をもつ芸術を紹介する国際的な拠点のひとつとなったのが、コンラート・フィッシャーが1967年にデュッセルドルフに開いたギャラリーでした。フィッシャーはアメリカやヨーロッパの若いアーティストたちとコンタクトを取りながら、斬新なプロセスで展覧会を実現させていきます。完成した作品を高い費用をかけて海外から輸送するよりも、作家本人をデュッセルドルフに招いて現地で制作する方法がとられました。または作家が記した指示書に基づき、フィッシャーをはじめ、職人やエンジニアなどが制作と展示設営を遂行しました。

フィッシャーは妻のドロテとともに、展覧会を手がけた作家たちの作品を蒐集し、同時に書簡や指示書、展示のためのドローイングといった多彩な資料も記録、保管してきました。本展では、故フィッシャー夫妻のコレクションを収蔵したノルトライン＝ヴェストファーレン州立美術館の全面的な協力のもと、1960年代から70年代のミニマル・アートとコンセプチュアル・アートを中心とした貴重な作品や、その生成を紐解くアーカイブを展覧します。さらに、国内所蔵の主要作品を加え、異なる主張や特性を有しながらも、芸術とは何かを問い直し、今日のアートにも多大な影響を与えたこれらの芸術動向を振り返ります。

出品作家

カール・アンドレ、リチャード・アートシュワガー、ローター・バウムガルテン、ベルント&ヒラ・ベツヒャー、マルセル・ブロータース、スタンリー・ブラウン、ダニエル・ビュレン、ハンネ・ダルボーフェン、ヤン・ディベッツ、ダン・フレイヴィン、ギルバート&ジョージ、河原温、ソル・ルウィット、リチャード・ロング、ブルース・ナウマン、プリンキー・パレルモ、ゲルハルト・リヒター、ロバート・ライマン

会期中のプログラム

■ 学芸員によるギャラリートーク

決定次第ウェブサイトにてお知らせいたします。

■ ガイドスタッフによる定時ツアー

上記イベント開催日を除く毎日 14:00-14:45

要予約（先着10名） | 館内受付にて当日10:30より随時受付 | 入館料のみ

■対話型鑑賞「オンラインmite!」(Zoomを使用したオンライン対話型鑑賞会)

毎月2回開催予定 11:00-11:45 10/23 (土)、10/26 (火)

要予約 (定員6名) | PassMarketにて受付 | 無料 | 詳細はウェブサイトにてお知らせいたします

■ Spotifyオリジナル・プレイリストを公開 選曲: トクマルシューゴ

ミニマル・アートと同時期に発生したミニマル・ミュージック、そしてその影響を受けた音楽を Spotifyプレイリストでご紹介します。自身もミニマル・ミュージックに影響を受けたという音楽家、[トクマルシューゴ](#)による、本展のための選曲です。(30曲、2時間 32分)

Spotifyプレイリスト <https://open.spotify.com/playlist/1HMTcoIwERjiDZqNZ0mmLw?si=1>



巡回情報

愛知県美術館 2022年1月22日(土) - 3月13日(日)

兵庫県立美術館 2022年3月26日(土) - 5月29日(日)



貸出図版 1.
ポスターイメージ



貸出図版 2.
ドロテ・フィッシャーとコンラート・フィッシャー 1969年
Photo: Gerhard Richter



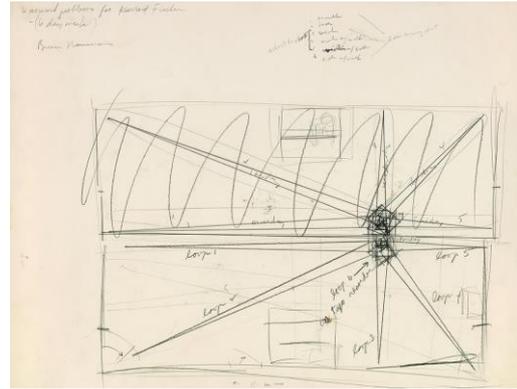
貸出図版 3.
ギルバート&ジョージ
《アーチの下で (ボックス)》1969年
ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ



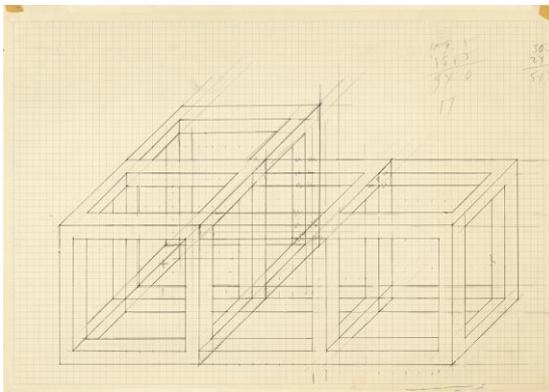
貸出図版 4.
コンラート・フィッシャーとギルバート&ジョージ (デュッセルドルフ、
プラターネン通り、1973年11月)
Konrad Fischer Galerie



ブルース・ナウマン
 《コンラート・フィッシャーのための音に関する6つの問題 (# 122)》
 1968年 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ
 © 2021 Bruce Nauman / ARS, New York / JASPAR, Tokyo G2589



ブルース・ナウマン
 《コンラート・フィッシャーのための音に関する6つの問題 (# Z 94)》 1968年
 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ
 © 2021 Bruce Nauman / ARS, New York / JASPAR, Tokyo G2589



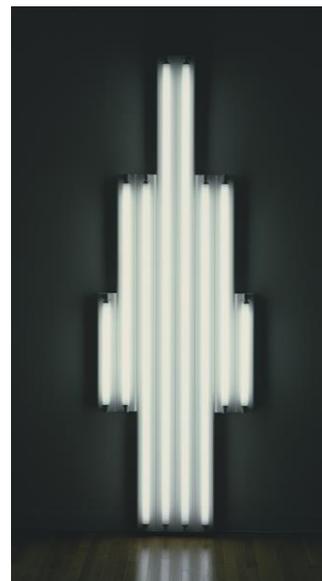
ソル・ルウィット
 《コンストラクション・ドローイング》 1969年
 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ
 © 2021 Sol LeWitt / ARS, New York / JASPAR, Tokyo G2589



ロバート・ライマン
 《ブルー・ライン・ドローイング #2 (#69.224)》
 1969年
 ノルトライン=ヴェストファーレン州立美術館、デュッセルドルフ
 © 2021 Robert Ryman / ARS, New York / JASPAR,
 Tokyo G2589



カール・アンドレの《5×20 アルトシュタットの長方形》(1967年)の展示での
 コンラート・フィッシャーと訪問者たち (1967年10月21日、フィッシャー・ギャ
 ラリーのオープニングにて)
 Photo: Fred Kliché (Archiv Dorothee und Konrad Fischer)
 © Carl Andre / VAGA at ARS, NY / JASPAR, Tokyo 2021 G2589



ダン・フレイヴィン
 《無題 (タトリンのための“モニュメント”)》
 1967-70年 東京都現代美術館
 © 2021 Stephen Flavin / ARS, New York / JASPAR,
 Tokyo G2589

図版掲載をご希望の方へ

貸出図版1-4を下記よりダウンロードいただけます。

https://www.artpr.jp/kawamura_dic_museum/minimal_conceptual

- * **貸出図版**以外の画像掲載をご希望の場合はご相談ください。
ただし、日本美術著作権協会の許諾条件により、画像サイズ50cm²未満、展覧会紹介が400字以内の印刷媒体に限ります。
- * 作家名・タイトル・制作年・所蔵者名および著作権クレジットは必ず明記してください。
- * 掲載情報の事実確認をさせていただくため、発行前にPDFでレイアウトをお送りください。
- * 紙媒体は掲載物送付（掲載ページのPDF可）、ウェブ媒体は公開用掲載ページのURL通知をお願いします。

お問い合わせ・追加資料リクエスト先

DIC川村記念美術館

TEL 043-498-2672（取材用）※記事掲載用は050-5541-8600（ハローダイヤル）

FAX 043-498-2139

広報担当： 林里絵子、小林千夏 press@kawamura-museum.com

学芸担当： 岡本想太郎